

# 第30回全国在日外国人教育研究集会・広島大会にご参加を！

## 多文化共生社会にむけて、学校や地域での教育実践を交流しよう

### 第30回全国在日外国人教育研究集会（広島大会）

私たち全国在日外国人教育研究協議会（略称、全外教）は、在日コリアンの子どもたちへの差別撤廃のとりくみを出発点にして、在日外国人と日本人の子どもたちの自立と連帯の場づくりを積極的に保障する運動や実践をすすめてきました。一九七九年に大阪の地で第一回全国研究集會を開催し、今年の広島大会で三〇周年を迎えます。

これまで広島では三回の大会を開催しました。そのいずれも全外教の歴史にとって意義深いものでした。広島での最初の大会であった一九八七年第九回大会は、初めて参加者が一〇〇〇人を超す大会になりました。また、二度目の一九九四年第一六回大会は、教育行政の後援を受けた最初の大会となりました。さらに二〇〇〇年に開催した三回目（第二一回大会）は、戦争の世紀と言われた二〇世紀最後の大会であり、被爆地・広島での開催は意義あることでした。

さて、四回目となる今年の広島大会はどのような意味を持つのでしょうか。

一九八七年の広島での最初の大会以来、私たちは在日韓国・朝鮮人被爆者の問題を起点に、広島において在日外国人、とりわけ在日コリアンとともに生きる社会の構築に向けて、学校や地域社会で教育実践や差別撤廃運動を続けてきました。しかし、広島では前回二〇〇〇年の大会前後から、在日外国人の子どもたちにかかわる教育課題を学校教育の課題にすることが困難な状況になっています。今回の広島大会を契機に自らの実践を振り返ってみることは、大きな意義があると考えます。

また、差別や人権の問題を抜きにした外国との国際交流が、「国際理解」という名のもとに進められているのも事実です。もちろん世界に開かれた社会を構築することは重要なことです。しかし、そのためにはまず同じ地域に暮らす外国人を受け入れ、ともに生きることのできる学校や地域社会をつくる必要があります。

今回の広島大会では、教育現場を取り巻く困難な状況の中で、どのような実践が可能なか。在日外国人の子どもたちが、将来に渡ってコミュニケーションの一員として生活していくために、学校は、そして私たちは何ができるのか。また、真の「国際理解」とは何なのかを、全国から参加されるみなさんとともに考えていきます。

全外教は、在日外国人の子どもたち一人ひとりの現状に向きあった教育実践を通して、日本社会の閉鎖性を問い続けてきました。すべての子どもたちが、名前やアイデンティティを保障され、その存在自体を肯定され受け入れられるような学校をつくりだすとりくみを深め、豊かな教育環境・地域づくりを、さらにすすめていきたいと思えます。

多くのおみなさんの大会への参加を、心からお待ちしております。



- |                 |  |
|-----------------|--|
| 日程・内容           | 2009年  |
| 8月19日（水）        | フィールドワーク<br>大久野島・毒ガス資料館をめぐるコース<br>呉・下蒲刈朝鮮通信使の足跡をめぐるコース<br>平和公園・大本営跡をめぐるコース |
| 8月20日（木）        | 開会行事と地元特別報告<br>広島女学院中学高等学校<br>（広島市中区上幟町 11-32）<br>全国交流会                    |
| 8月21日（金）        | 分科会と閉会行事<br>広島工業大学専門学校<br>（広島市西区福島町 2丁目 1-1）                               |
| 8月19日（水）～20日（木） | 全国在日外国人生徒交流会<br>広島市三滝少年自然の家<br>（広島市西区三滝本町 1丁目 73-20）                       |
| 参加資料代           | 4,500円<br>（フィールドワーク、全国交流会参加費は別途）   |
| 申し込み            | 「開催要項」の申込用紙にて  |

主催：全国在日外国人教育研究協議会、第30回全国在日外国人教育研究集会広島大会地元実行委員会

後援：広島県・広島県教育委員会・広島市教育委員会（申請予定）・広島市

連絡先：広島大会地元実行委員会・山本（080-6309-2769）